

浜の活力再生プラン (第 2 期)

1 地域水産業再生委員会

組織名	勝連地区地域水産業再生委員会
代表者名	上原勇行（勝連漁業協同組合 代表理事組合長）

再生委員会の構成員	勝連漁業協同組合、うるま市
オブザーバー	沖縄県水産海洋技術センター

※再生委員会の規約及び推進体制の分かる資料を添付すること

対象となる地域の範囲及び漁業の種類	<p>対象地域：うるま市勝連（津堅・平敷屋・浜・比嘉）（勝連漁協の地区）</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">1 モズク養殖</td> <td style="width: 50%; text-align: right;">(220 名)</td> </tr> <tr> <td>2 潜水器漁業（鮮魚・貝類）</td> <td style="text-align: right;">(14 名)</td> </tr> <tr> <td>3 その他</td> <td style="text-align: right;">(73 名)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">組合員数（正・准合計）</td> <td style="text-align: right;">(307 名)</td> </tr> </table>	1 モズク養殖	(220 名)	2 潜水器漁業（鮮魚・貝類）	(14 名)	3 その他	(73 名)	組合員数（正・准合計）	(307 名)
1 モズク養殖	(220 名)								
2 潜水器漁業（鮮魚・貝類）	(14 名)								
3 その他	(73 名)								
組合員数（正・准合計）	(307 名)								

※策定時点で対象となる漁業者数も記載すること

2 地域の現状

(1) 関連する水産業を取り巻く現状等

<p>勝連漁協（以下「当漁協」という。）のある平敷屋は、沖縄県中部与勝半島の先端に位置し、周辺海域には津堅島、浜比嘉島、浮原島等、多数の離島が浮かぶ、浅瀬（イノー）が広がる美しい海に囲まれた地区である。</p> <p>当漁協の管轄区域である中城湾では、沿岸漁業を中心として、ハタ類、ブダイ類、アジ類、タコなど数多くの魚介類が水揚げされている。</p> <p>近年、この広大な浅瀬を利用したモズク養殖業が大きく発展し、沖縄県で勝連地域は一大産地となっている。当漁協は、モズクに係る特定区画漁業権について、平成 30 年 9 月に 9 件の免許（更新）を受け、増産に取り組んでいる。（令和 5 年 9 月の免許更新時には 9 件中、3 件について拡大を予定している。）また、平敷屋漁港の整備拡充や種苗施設整備にも力を入れ、モズク生産の拡大に努めている。</p> <p>当漁協の水揚額は、約 95%がモズク養殖によるもので、過去 5 年間（平成 28 年度から令和 2 年度）の水揚量は、約 5,000～6,000 t、水揚額は 8～11 億円ほどで好調に推移している。好調である要因は、当漁協の主力製品であるカップ酢モズク、原料用モズク製品に加え『早摘みモズ</p>

ク』『洗いモズク』『きざみ生モズク』『モズクを用いた調味料』などの新商品が徐々に受け入れられモズク消費市場が拡大したことを考えている。今後も、養殖方法や種苗環境の改善等でモズクの増産に努めるとともに、加工品の開発・販売促進等を図り、漁業収入の向上を目指すこととしている。具体的には、当漁協では、漁業者1人当たり約1,000枚の養殖網を使用しているが、収穫までに、種付け不良や発育不良等で多くの養殖網を途中で間引いていることから、種付け水槽の水質管理及び顕微鏡での目視確認による優良な種網の生産、養殖場の拡大及び使用方法の見直し等を行い、生産性向上を図る必要がある。

また、当漁協のモズク加工施設の生産ラインは、

1 (塩蔵モズク)【モズク水揚げ⇒一次選別⇒塩蔵⇒缶詰⇒冷凍⇒出荷】

2 (生モズク)【モズク水揚げ⇒一次選別⇒缶詰⇒冷凍⇒出荷】

3 (早摘みモズク)【1・2で一時冷凍保管したモズクを解冻⇒目視選別⇒パック詰め⇒出荷】

となっている。1及び2による加工品は、主に県外向けのモズク加工品(カップ酢モズク)原料として出荷している。3の工程は、当漁協製造の商品として、1と2の一次加工施設を共用し、1と2の加工を優先しつつ、手狭な加工場で隙間を利用して手作業で行っているため、衛生管理、異物除去の高度化、機械化によるコスト削減等の課題がある。また、原料出荷に頼るあまり、供給が需要を上回った場合原藻価格が下落する。価格を維持するには、カップ酢モズク以外のモズク加工品を製造・販売しモズク消費を拡大させる必要がある。

カップ酢モズク以外でのモズク製品製造及び、2・3の工程を改善する取組みとして、新たに加工施設を整備し、

4 (ノン・フローズン)【水揚げ⇒殺菌海水洗浄⇒目視選別⇒様々な容量パック詰め⇒出荷(冷蔵)】

5 (ワンフローズン)【水揚げ⇒殺菌海水洗浄⇒目視選別⇒様々な容量パック詰め⇒出荷(冷凍)】

6 (洗いモズク)【水揚げ⇒上水洗浄⇒目視選別⇒様々な容量パック詰め⇒出荷(冷凍)】

7 (調味モズク)【水揚げ⇒上水洗浄⇒目視選別(一時冷凍保管)⇒味付け、調理、混合、袋詰め等⇒出荷】

を行っていく計画である。この取組みによって、水揚から最終製品出荷までを一貫して行うとともに、産地漁協にしかできないノン・フローズン生モズクを始めとした収益性の高い製品を量産し、収益増を目指す。

その他、効率的なモズク加工推進を目指して、加工を長期にわたり維持・安定させるため、加工場従業員の人材確保・育成に取り組む必要がある。

また、漁業経費コスト削減の対策として、漁業者が使用している燃料等の節約及び養殖網等の買換えサイクルの延長等の取組が必要である。

(2) その他の関連する現状等

当地域には、世界遺産の勝連城跡、美しい海、海中道路や橋で結ばれた風光明媚な離島、地域の伝統行事として全国的にも名前が知られているエイサー、ハーリーなどの観光資源が豊富にあり、観光客のドライブコースとして人気の高いエリアである。

今後、うるま市が第一次産業の持続・発展的な振興を目的に整備した、うるま市農水産業振興戦略拠点施設『うるマルシェ』『道の駅 あやはし館』などの観光関連施設を活用して、観光とリンクした直売所、体験漁業などを検討していく。

3 活性化の取組方針

(1) 前期の浜の活力再生プランにかかる成果及び課題等

--

(2) 今期の浜の活力再生プランの基本方針

1. 漁業収入の向上

①漁場有効活用及び種付けの安定化によるモズク水揚量の増加

前期計画において拡大したモズク漁場の有効活用を行い、モズクの安定的な生産を行うため、種付けに係る管理（種、水質管理等）を関係機関と連携して行う事で効率的な芽出しを行い、もって刈取量の歩留まり率を高めるとともに、休眠漁場を把握し、有効活用を図ることで一人あたりの収穫量を順次増やし、増産を図る。

②モズク原藻単価の向上

当漁協及び漁業者は、水揚げを迅速に行う工夫をすることでモズク原藻の鮮度を保つとともに、色や熟度などの品質基準を確立して原藻単価の向上を図る。

③効率的なモズク加工の推進・販路開拓

当漁協のモズク出荷量の90%以上は、カップ酢モズクなどの原料として県外業者へ出荷されている。原料出荷に頼るあまり、供給が需要を上回った場合、原藻価格が下落する。そこで、令和5年4月稼働を目指してモズク加工場を整備する。この工場では、取引先からの要望がある衛生管理、異物除去の高度化、機械化によるコスト削減等、様々なニーズに対応したモズク加工品を製造し年間720tのモズクを使用する。漁協自らが先進的な商品を製造しモズクの消費拡大を図ることで原藻価格上昇が期待できる。

また、学校給食及び地元ホテルで観光客への提供や、イベント出品等を含め、小売り及び業務向けなど様々な市場への販路を開拓する。

2. 漁業コストの削減

①漁業経営セーフティーネット構築事業への加入促進

当漁協は、漁業経営セーフティーネット構築事業への加入を促進し、漁業経営の安定を図る。

②燃料及び養殖網等にかかるコスト削減

漁業者は、低速運行や船底清掃（塗装）などによる燃料の節約、並びに優良な種網生産（種付け、芽出しの成功率向上）による網使用頻度の低減、養殖網等の買換えサイクルの延長等に努め、コスト削減を図る。

(3) 漁獲努力量の削減・維持及びその効果に関する担保措置

漁業者は、一人当たりの網枚数(1,000枚まで)、養殖期間(9月1日～翌年7月31日まで)、遵守事項(使用しない網、鉄筋は、漁場に放置してはならない)など、勝連漁業協同組合モズク生産部会の規定を遵守している。

※プランの取組に関連する漁業調整規則や漁業調整委員会指示等について記載する。

(4) 具体的な取組内容 (毎年ごとに数値目標とともに記載)

1年目 (令和4年度) 所得向上率 (基準年比) 2.5%

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>①漁場有効活用及び種付けの安定化によるモズク水揚量の増加 当漁協は、特定区画漁業権内の休眠漁場の有効活用を図り、一人あたりの収穫量を増やす。 また、当漁協は、モズク種付け施設の水質管理などを目的とした海水濾過装置の管理及び、温度計・顕微鏡等の整備を行い、漁業者は、種付け水槽の水質管理及び顕微鏡での目視確認による優良な種網の生産に努めるとともに、苗床漁場及びモズク養殖漁場への網の出し方(水温・食害などを軽減できるタイミング)を工夫し、効率的な芽出しと本張りを行う。</p> <p>②モズク原藻単価の向上 当漁協及び漁業者は、水揚を計画的かつ迅速に行うことでモズク原藻の鮮度を保ち、原藻単価の向上を図る。</p> <p>③効率的な加工の推進・販路開拓 当漁協は、加工施設の整備(平敷屋漁港内)を行うとともに、その稼働に向けて、既存加工場で従業員に対し衛生管理や作業工程の周知を行う。 当漁協は、既存加工場で学校給食・ホテル・飲食店等業務用、一般小売向け新商品を製造販売する。 また、当漁協は、モズクの日(毎年4月第3日曜日)を活用したイベント(試食販売・特売)を販売小売店と連携し全国的に広げていく。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>①漁業経営セーフティーネット構築事業への加入促進 当漁協は、漁業経営セーフティーネット構築事業への加入を促進し、漁業経営の安定化を図る。</p> <p>②燃料及び網等にかかるコスト削減 漁業者は、低速運行や船底清掃(塗装)などによる燃料の節約、並びに優良な種網生産(種付け、苗床芽出しの成功率向上)による網使用頻度の低減、養殖網等の買換えサイクルの延長等に努め、コスト削減を図る。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>【収入向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水産業強化支援事業(国) ・水産物流通加工推進事業(沖縄県漁業振興基金) <p>【コスト削減】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁業経営セーフティーネット構築事業(国)

2年目（令和5年度）所得向上率（基準年比）4.7%

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>①漁場有効活用及び種付けの安定化によるモズク水揚量の増加</p> <p>当漁協は、特定区画漁業権の拡大及び休眠漁場の有効活用を図り、一人あたりの収穫量を増やす。</p> <p>また、当漁協は、モズク種付け施設の水質管理などを目的とした海水濾過装置の管理及び、温度計・顕微鏡等の整備を行い、漁業者は、種付け水槽の水質管理及び顕微鏡での目視確認による優良な種網の生産に努めるとともに、苗床漁場及びモズク養殖漁場への網の出し方(水温・食害などを軽減できるタイミング)を工夫し、効率的な芽出しと本張りを行う。</p> <p>②モズク原藻単価の向上</p> <p>当漁協及び漁業者は、水揚を計画的かつ迅速に行うことでモズク原藻の鮮度を保ち、原藻単価の向上を図る。</p> <p>③効率的な加工の推進・販路開拓</p> <p>当漁協は、1年目に整備した加工場にて衛生管理や異物除去の徹底による品質の向上、機械化によるコスト削減を図るとともに、徹底した衛生管理の下、鮮度・食感を最大限に活かした製品を効率的に製造する。さらに、当漁協は同加工場において、鮮度・食感を最大限に活かした様々なニーズに合致したモズク及びモズク加工品、また、学校給食、ホテル、飲食店等、業務用・一般小売向け新商品を製造販売する。</p> <p>また、当漁協は、モズクの日(毎年4月第3日曜日)を活用したイベント(試食販売・特売)を販売小売店と連携し全国的に広げていく。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>①漁業経営セーフティーネット構築事業への加入促進</p> <p>当漁協は、漁業経営セーフティーネット構築事業への加入を促進し、漁業経営の安定化を図る。</p> <p>②燃料及び網等にかかるコスト削減</p> <p>漁業者は、低速運行や船底清掃(塗装)などによる燃料の節約、並びに優良な種網生産(種付け、苗床芽出しの成功率向上)による網使用頻度の低減、</p> <p>養殖網等の買換えサイクルの延長等に努め、コスト削減を図る。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>【収入向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水産物流通加工推進事業(沖縄県漁業振興基金) <p>【コスト削減】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁業経営セーフティーネット構築事業(国)

3年目（令和6年度）所得向上率（基準年比）6.9%

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>①漁場有効活用及び種付けの安定化によるモズク水揚量の増加</p> <p>当漁協は、特定区画漁業権内の休眠漁場の有効活用を図り、一人あたりの収穫量を増やす。</p> <p>また、当漁協は、モズク種付け施設の水質管理などを目的とした海水濾過装置の管理及び、温度計・顕微鏡等の整備を行い、漁業者は、種付け水槽の水質管理及び顕微鏡での目視確認による優良な種網の生産に努めるとともに、苗床漁場及びモズク養殖漁場への網の出し方(水温・食害などを軽減できるタイミング)を工夫し、効率的な芽出しと本張りを行う。</p> <p>②モズク原藻単価の向上</p> <p>当漁協及び漁業者は、水揚を計画的かつ迅速に行うことでモズク原藻の鮮度を保ち、原藻単価の向上を図る。</p> <p>③効率的な加工の推進・販路開拓</p> <p>当漁協は、1年目に整備した加工場にて徹底した衛生管理の下、鮮度・食感を最大限に活かした製品を効率的に製造するとともに、様々なニーズに合致したモズク及びモズク加工品、また、学校給食・ホテル・飲食店等業務用、一般小売向け新商品を製造販売する。</p> <p>また、当漁協は、モズクの日(毎年4月第3日曜日)を活用したイベント(試食販売・特売)を販売小売店と連携し全国的に広げていく。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>①漁業経営セーフティーネット構築事業への加入促進</p> <p>当漁協は、漁業経営セーフティーネット構築事業への加入を促進し、漁業経営の安定化を図る。</p> <p>②燃料及び網等にかかるコスト削減</p> <p>漁業者は、低速運行や船底清掃(塗装)などによる燃料の節約、並びに優良な種網生産(種付け、苗床芽出しの成功率向上)による網使用頻度の低減、養殖網等の買換えサイクルの延長等に努め、コスト削減を図る。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>【収入向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水産物流通加工推進事業(沖縄県漁業振興基金) <p>【コスト削減】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁業経営セーフティーネット構築事業(国)

4年目(令和7年度)所得向上率(基準年比)9.1%

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>①漁場有効活用及び種付けの安定化によるモズク水揚量の増加</p> <p>当漁協は、特定区画漁業権内の休眠漁場の有効活用を図り、一人あたりの収穫量を増やす。</p> <p>また、当漁協は、モズク種付け施設の水質管理などを目的とした海水濾過装置の管理及び、温度計・顕微鏡等の整備を行い、漁業者は、種付け水</p>
---------------------	---

	<p>槽の水質管理及び顕微鏡での目視確認による優良な種網の生産に努めるとともに、苗床漁場及びモズク養殖漁場への網の出し方(水温・食害などを軽減できるタイミング)を工夫し、効率的な芽出しと本張りを行う。</p> <p>②モズク原藻単価の向上</p> <p>当漁協及び漁業者は、水揚を計画的かつ迅速に行うことでモズク原藻の鮮度を保ち、原藻単価の向上を図る。</p> <p>③効率的な加工の推進・販路開拓</p> <p>当漁協は、1年目に整備した加工場にて徹底した衛生管理の下、鮮度・食感を最大限に活かした製品を効率的に製造するとともに、様々なニーズに合致したモズク及びモズク加工品、また、学校給食・ホテル・飲食店等業務用、一般小売向け新商品を製造販売する。</p> <p>また、当漁協は、モズクの日(毎年4月第3日曜日)を活用したイベント(試食販売・特売)を販売小売店と連携し全国的に広げていく。</p>
漁業コスト削減のための取組	<p>①漁業経営セーフティーネット構築事業への加入促進</p> <p>当漁協は、漁業経営セーフティーネット構築事業への加入を促進し、漁業経営の安定化を図る。</p> <p>②燃料及び網等にかかるコスト削減</p> <p>漁業者は、低速運行や船底清掃(塗装)などによる燃料の節約、並びに優良な種網生産(種付け、苗床芽出しの成功率向上)による網使用頻度の低減、養殖網等の買換えサイクルの延長等に努め、コスト削減を図る。</p>
活用する支援措置等	<p>【収入向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水産物流通加工推進事業(沖縄県漁業振興基金) <p>【コスト削減】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁業経営セーフティーネット構築事業(国)

5年目(令和8年度)所得向上率(基準年比) 11.4%

漁業収入向上のための取組	<p>①漁場有効活用及び種付けの安定化によるモズク水揚量の増加</p> <p>当漁協は、特定区画漁業権内の休眠漁場の有効活用を図り、一人あたりの収穫量を増やす。</p> <p>また、当漁協は、モズク種付け施設の水質管理などを目的とした海水濾過装置の管理及び、温度計・顕微鏡等の整備を行い、漁業者は、種付け水槽の水質管理及び顕微鏡での目視確認による優良な種網の生産、苗床漁場及びモズク養殖漁場への網の出し方(水温・食害などを軽減できるタイミング)を工夫し、効率的な芽出しと本張りを行う。</p> <p>②モズク原藻単価の向上</p> <p>当漁協及び漁業者は、水揚を計画的かつ迅速に行うことでモズク原藻の</p>
--------------	---

	<p>鮮度を保ち、原藻単価の向上を図る。</p> <p>③効率的な加工の推進・販路開拓</p> <p>当漁協は、1年目に整備した加工場にて徹底した衛生管理の下、鮮度・食感を最大限に活かした製品を効率的に製造するとともに、様々なニーズに合致したモズク及びモズク加工品、また、学校給食・ホテル・飲食店等業務用、一般小売向け新商品を製造販売する。</p> <p>また、当漁協は、モズクの日(毎年4月第3日曜日)を活用したイベント(試食販売・特売)を販売小売店と連携し全国的に広げていく。</p>
漁業コスト削減のための取組	<p>①漁業経営セーフティーネット構築事業への加入促進</p> <p>当漁協は、漁業経営セーフティーネット構築事業への加入を促進し、漁業経営の安定化を図る。</p> <p>②燃料及び網等にかかるコスト削減</p> <p>漁業者は、低速運行や船底清掃(塗装)などによる燃料の節約、並びに優良な種網生産(種付け、苗床芽出しの成功率向上)による網使用頻度の低減、養殖網等の買換えサイクルの延長等に努め、コスト削減を図る。</p>
活用する支援措置等	<p>【収入向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水産物流通加工推進事業(沖縄県漁業振興基金) <p>【コスト削減】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁業経営セーフティーネット構築事業(国)

(5) 関係機関との連携

<ul style="list-style-type: none"> ・漁場有効活用及び種付けの安定化については、沖縄県水産海洋技術センターの指導、協力を得て行う。 ・モズク原藻単価の向上については、沖縄県水産海洋技術センターに助言をもらう。 ・効率的な加工の推進については、沖縄県漁業協同組合連合会や取引先モズク加工販売業者から助言をもらう。 ・販路開拓については、卸業者や小売店、飲食店と協力して行う。

4 目標

(1) 所得目標

漁業所得の向上 10%以上	基準年	平成 28～令和 2 年度 5 中 3 平均： 漁業所得 円
	目標年	令和 8 年度： 漁業所得 円

(2) 上記の算出方法及びその妥当性

--

※算出の根拠及びその方法等について詳細に記載し、必要があれば資料を添付すること。

(3) 所得目標以外の成果目標

モズク水揚量の向上	基準年	平成28～令和2年度所得の5中3の3年の平均: 4,843 トン
	目標年	令和8年度: 5,085 トン
モズク平均単価の向上	基準年	平成28～令和2年度所得の5中3の3年の平均: 184.5 円/kg
	目標年	令和8年度: 193.7 円/kg

(4) 上記の算出方法及びその妥当性

<p>モズク水揚量については、平成28年～令和2年のうち、所得が最大と最小であった年を除いた5中3の3年の平均を基準とし、5%増産することを目標とした。</p> <p>モズク平均単価についても、同じ3年の平均を基準とし、5%向上させることを目標とした。</p>
--

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
水産業強化支援事業	【収入向上】 モズク選別作業を高度化し『ノン・フローゼン生モズク』など、様々なニーズに合わせた高次加工が可能な加工施設を整備する。
水産物流通加工促進事業	【収入向上】 モズクの日(毎年4月第3日曜日)を活用したイベント(試食販売・特売)を販売小売店と連携し実施する。
漁業経営セーフティネット構築事業	【コスト削減】 燃料価格の上昇等に備えて本事業への漁業者の加入を促進し、漁業経営の安定化を図る。

※関連事業には、活用を予定している国(水産庁以外を含む)、地方公共団体等の補助金・基金等を記載。ただし、本欄への記載をもって、事業の活用を確約するものではない。

※具体的な事業名が記載できない場合は、「事業名」は「未定」とし、「事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性」のみ記載する。